

# 一フィットネスクラブのライフサイクルと 衰退期に見るフィットネスクラブ運営における課題

生涯スポーツゼミナール 1213107 竹井 佳奈子

## 1. 研究動機・研究目的

我が国のフィットネスクラブ業界の市場規模は、右肩上がりに推移しており、2014年度の施設数は4375となり、市場規模は4316億円と、業界史上最高となった。2005年度から成長軌道に入り、2006年に499、2007年には512の施設が新たに開業され、ここ数年も200前後の施設が開業されている。しかし一方で、閉鎖撤退した施設も2000年度から毎年度存在している。

千葉県栄町は、人口の減少に伴い、子どもの数が年々減少しており、2015年度には小学校1校と中学校1校が廃校になった。そうした町の過疎化や、子どものスポーツ離れなどの背景もあり、約30年間経営していたフィットネスクラブ「スポーツステーションさかえ」が同年度7月に閉鎖された。クラブ運営には、会員の確保が必要不可欠であるが、閉鎖に至るまでの経緯は単に会員の不足だけではなく、そこにはあらゆる要因が複雑に絡み合っているはずである。

そこで本研究では、閉鎖したスポーツステーションさかえの元従業員への聞き取り調査を基に、クラブ開設から閉鎖までの過程を調査し、一フィットネスクラブのプロダクト・ライフサイクルを明らかにすること、その中でも殊に「衰退期」に着目し、どのようにして経営困難な状況に陥ったのかを洗い出すことを目的とし、フィットネスクラブの役割やクラブ運営の課題、今後のフィットネスクラブの在り方について考察した。

## 2. 研究方法

【調査対象】 スポーツステーションさかえ開設から閉鎖までの約30年間勤務していた元従業員

【調査期間】 2016年8月21日～11月5日

【調査方法】 1対1の半構造化インタビュー調査（期間中に3回）

【分析手法】 プログラム・ライフサイクル分析

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA分析）

## 3. 主な結果と考察

### ①スポーツステーションさかえのプロダクト・ライフサイクル

本研究のプログラム・ライフサイクル分析により、以下の3つのことがスポーツステー

ジョンさかえにおける課題として挙げられる。

- 1)クラブのキャパシティを考え、需要と供給が釣り合うよう前もって計算すること
- 2)クラブの成長期に生じた利潤を目先のことに遣うのではなく、先を見越してどこでどう遣うか計画を立てること
- 3)スタッフ間、経営者とスタッフ間の信頼関係を築けるような環境づくりをすること

#### ②フィットネスクラブ運営における課題

フィットネスクラブの運営には、人間関係、金銭問題、クラブの仕組みの3つが絡み合っていることがM-GTA分析によって見出された。そして、以下の4つのことがフィットネスクラブ運営における課題として挙げられる。

- 1)経営者ースタッフ間、会員ースタッフ間の信頼関係を築く努力をすること
- 2)質の高いスタッフを採用し、無駄な人件費を省くこと
- 3)会員の年齢層などを考慮し、ニーズとクラブのキャパシティに合った場を提供すること
- 4)地域の特性に対応し、先見の明を持つこと

#### 4. 結論

- ①スポーツステーションさかえは、開設から2年余りで最盛期を迎え、その後は緩やかに衰退し、会員の年齢層の変化や、施設の老朽化に対応できず、29年1か月間の歴史に幕を閉じた。
- ②スポーツステーションさかえが閉鎖に至った原因として、経営者ースタッフ間の信頼関係が希薄化してしまったこと、設備投資の計画を綿密に立てていなかったこと、町全体の年齢層の変化に対応できなかったことが挙げられる。
- ③フィットネスクラブの運営は、人間関係、金銭問題、クラブの仕組み、地域の特性といったカテゴリーが絡み合っており、それらが円滑に回るクラブの寿命は長く、それぞれのバランスが取れていないクラブの寿命は短い。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の作成にあたり、論文作成のいろはを丁寧に教えてくださり、多大なご支援と適切なご指導を頂いた黒須充教授に深く感謝申し上げます。また、本研究の調査を行うにあたり、快く協力してくれた父にも感謝しています。約30年間、町のためにクラブを支え続けた父を改めて誇りに思いました。スポーツステーションさかえの努力の証をここに残すことができ、嬉しく思います。

執筆が思うように進まないとき、ゼミの仲間や先輩の言葉に何度も助けられました。互いに励まし合いながら取り組んできたこの時間は、一生の宝になると思います。この研究に協力してくださった全ての方に、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。